

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年6月1日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子第2幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔がいっぱいの杉の子第2幼稚園」

- ①心身ともに調和のとれた発育・発達と健全な人間性の基盤を作ること
 - ②精神的にも肉体的にも、つよく・かしこく・たくましく・感性豊かな思いやりのある子の育成
- <杉の子第2幼稚園の教育>
「教育とは、しっかりした理念をもって、子どもを伸ばすことである」～しかも、笑顔つきで～

2. 本年度重点目標・計画

<本年度の重点>

- ・教職員の資質・指導力の向上⇒個々の力と組織力（チーム園の結集）
 - ・人間的な魅力（あたたかさ、ポジティブシンキング）
 - ・表現力、特に聞く力の育成
 - ・個から集団へ（個を大切にしながら、集団としての力を育む）
 - ・保育から教育へ（幼稚園らしさの追求）
 - ・保育部・幼稚園部・預かりの連携
 - ・危機管理（安全対策）
 - ・人材の確保・育成
 - ・新型コロナ対策
- ↓ そのために
- 目標と指導と評価の一体化を図る
 - つけたい力、目標等を明確にし、子どものやる気、主体性を生かす展開、活動を行う
 - 一生懸命にやるすばらしさを体感させる
 - 子どもの話（声）に耳を傾ける
 - 年長児のモデル化、異学年の交流を図る
 - 行事や体験活動、あそびを通して生きる力を育む
 - あいさつ、「ありがとう」「ごめんね」が気持ちよく言える子どもを育成する
 - 情報の発信を行う
 - 子どもの笑顔があふれる環境づくりを行う
 - 合言葉は「はじける」⇒子どもも先生も、保護者も！
 - 継承と発展⇒「このような子どもに育てたいから、このような取組をしていこう！」の視点で
 - コロナ禍の教育課程を考え、子どもを中心とした保育・教育を実践する
- ※人には優しく、自分に厳しく、保育・教育のプロとして愛をもって、子どもを伸ばしましょう！

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組み状況
1 教育課程を見直し改善を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・宮地学園の教育方針である「笑顔いっぱいの幼稚園」の「笑顔」をテーマに取り組むことができた。子どもの笑顔を第一に考えると、自然と楽しい活動につながり、コロナ禍の制限がある活動の中でも、子どもの「やりたい」という気持ちを引き出せるよう意識できた。 ・行事に向けての過程や、終わってからの余韻あそびなども大切に、「やりたい」気持ちを盛りあげ、終わった後の達成感につなげることができた。 ・「自分の力で仲良く、元気に、もうひとがんばりする子ども」という理念を根底にもち、子どもの日々の姿をしっかりとみて、個々の成長に合わせた対応をすることができた。 ・「つよく・かしこく・たくましく」を念頭に、コロナ禍においても職員が一丸となり、子どもたちに何ができるかを話し合い、できることを最大限に引き出すことができた。
2 職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の活動や行事の取組のなかで、全体及び各クラスの目標やねらい、つけたい力を明確にして、手立てを打つことができた。子どもたちが、「やってみよう」「楽しい」と思うことができるような、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができるよう取組を職員それぞれが考えて実行することができた。 ・子どもたちが「やってみよう！」とワクワクするような活動にチャレンジし、子どもたちのため、そして、今後の自分の保育・教育のために学ぶ姿勢があった。 ・園全体の目標を「はじける」と定めたことにより、子どもたちの活動も保育者の向かう方向も明確になり、例年より園全体で楽しめた。 ・行事ごとの反省会や公開保育など、子どもたちの姿を多面的にとらえて互いに勉強できる機会を大切に、職員間で学びや情報を共有することができた。
3 特別支援教育のための園内支援体制を整備する(家庭との協力・連携も含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高知市教育研究所とも連携を図り、就学に向けて気になることや保育上の留意点、伸ばしたいところなどを保護者と相互理解し、就学先の小学校にも個別指導計画をもとに話し合っている。 ・子ども一人ひとりの特性を理解し、支援ができていて、子どもたちが園生活を楽しく笑顔で過ごしている。また、保護者からも温かいことばや気持ちをいただいている。 ・クラスの中だけでなく、園全体で共通理解できるようにし、預かり保育の中でも、複数の目で成長を見守ることができている。 ・特定の子どもに対しての特別支援だけでなく、クラス全体としてユニバーサルデザインを活用した指示や個々に合わせた丁寧な指導、支援を行うことができた。 ・個人面談はもちろん、日常的にも保護者とのコミュニケーションをとることを大切にしている。気になる子どもについては、保護者とともにその子どものために一番良い手立てを考えていった。また、必要に応じて専門機関との連携も図った。
4 安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面を常に意識し、園外に出るときやプール活動、行事等、その都度でいねいに事前の話し合いを重ねることができた。活動によって子どもたちの行動を予想し、マットを用いたり広い場所を使ったりして危険を防ぐようにした。 ・多様な食物アレルギーに対応する中、食事のとり方や配慮、声かけ、給食室への相談、連携などを意識し、職員全体で給食提供ができています。 ・コロナ対策も、本部と連携し最大限の取組を行うことができた。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人ひとりの子どもを大切にしたい質の高い教育・保育を実践することができた。また、更なる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
1 教育内容	<p>コロナ禍で多くのことが制限されるなか、子どもたちが安心して、笑顔いっぱいの園生活が送れるよう子どもたちの活動を考えていきたい。子どもたちが、あそびや体験を通して、何を感じ、何に興味関心を持ち、何を学んでいるのか等をしっかりと把握し、表面的な姿にとらわれない内面の思い、育ちを見ていくことで、子どもの「やりたい」を引き出していきたい。子どもたちの、日々の自分たちで作り出されるあそびのなかに大きな学びがあることをしっかりと捉え、子どもたちから学ぶ姿勢を続けていきたい。行事の取組を早い段階で計画的に余裕をもって進めていきたい。保育部と幼稚園部、預かりの連携の強化を図りたい。</p>
	<p>「はじける」をテーマとした自己変革について、何が自分にとって必要なかを考え、実践していきたい。子どものために、保育者が楽しんで、はじめて、教育・保育ができるようにしていきたい。活動と自由あそびがぶつ切れにならないように、子どもたちの「やりたい」「やってみよう」を十分にできる時間と環境づくりを考えていきたい。また、子どもたちがあそびを通して学ぶなかで、何を楽しんでいるか、何を体験しているかを読み取り、あそびこめる環境づくりをしていきたい。</p>
	<p>特別な支援の必要な子どもについては、全職員がその子どものことを理解し、特性を把握しておくことが必要である。今後も、家庭や職員間でいねいに情報を共有し合いながら、支援を必要とする子どもへの対応や進級後の引継ぎ、就学支援につながるよう連携を図っていけるようにしたい。子どもや保護者との信頼関係を充実させ、自分たちの保育・教育力をスキルアップしていきたい。</p>
	<p>引き続き、アレルギー児への対応や日々の給食確認等、連携や共通理解を図っていくことが必要である。常に危機管理を意識していくために、安全・安心に対する意識改革とともに、人員の確保が重要であると感じている。地震や火災などは訓練を重ねているが、不審者に対する訓練も行っていきたい。</p>

6. 学校関係者の評価

<令和3年度後援会長>

・各クラス毎月の目標を設定し、園便りに記載したり、行事等の目標やつきたい力等を「園長室のまど」に随時記載されているので、分かりやすく、行事等に視点をもって参加することができる。

・子どもたちは、年長組になったら「幼稚園の中のリーダー」としてとても張り切り、日常の保育・教育の中でも、自然とさまざまなことを率先してできている。また、年長児の取組であるよさこいや運動会マスト登り、鼓笛隊等、一生懸命行う姿を見ることで、年中児、年少児が模倣したり、意欲につながっていると感じる。

・「おはよう」や「ありがとう」のことばが園にあふれているので、子どもたちもそれを見て、あいさつができる子どもに育っていると感じる。

・食育にも積極的に取り組み、野菜の栽培、サツマイモの苗植え・収穫・焼き芋パーティーを行ったりと、「直接体験」を通して、自然に興味をもち、育てることの楽しさや大変さが分かり、食べ物のありがたさやいろんな人への感謝の心に結びついていると思う。

・「園長室のまど」やHP内のブログを通して、ふだんの子どもの様子や行事の様子等を頻回にアップしたり、園舎内には活動の写真も多く掲示しており、子どもの園での姿や表情がよく分かる。仕事等で忙しい家庭も幼稚園で取り組んだことを確認することができる。

<あたご幼稚園長>

・心配
と不安を繰り返しながら2年目のコロナ禍を終えた。多くの制約を受ける中でも、あきらめずに一生懸命進んできた足跡を資料から確かに受け取ることができた。素晴らしい1年を過ごしたと感じる。今日的な課題に臆せず、正面から向き合ってきた先生方一人ひとりの姿勢そのものが、最大の成果であったのではないかと推察する。この苦労は自信になっているはずで、すでに大変な力を身につけていると思う。今後は、「頑張る」から「楽しむ」にシフトしてはいかがだろうか。先生方がしっかりと仕事を楽しむことが、やがては学園の力そのものになると思う。

<評議員/株式会社メディア・エーシー取締役会長>

・内容をじっくり読みこんでみると、私たち企業経営者が、日頃頭を悩ませている問題と、テーマや解決のための取組のほとんどが重なっていることに気が付いた。例えば、本年度の重点目標・計画にある「教職員の資質・指導力の向上⇒個々の力と組織力（チーム園としての力を結集）を伸ばす」「個から集団へシフト：個を大切にしながら、集団としての力を育む」等、そして、具体的な実践計画として「つきたい力、目標等を明確にし、子どものやる気、主体性を生かす展開、活動を行う」etc、そのほとんどの主体を会社、対象を社員に置き換えるだけで、そのまま社内の目標にできるものばかりである。

・杉の子第2幼稚園に年に1～2度バ
ンフレット撮影で訪問した際の子どもたちの屈託のない笑顔や、先生方の元気な姿を見るたびに感じる眩しさは、これらの真摯な取組によるものだ改めて感じた。

<鴨田小学校長>

・子どもたちが、「やってみたい」「楽しい」と思うことができるような活動を職員一人ひとりが考え、取り組み、日々自己研鑽する姿勢が子どもたちの「笑顔」に繋がっていると感じた。本校も「やる気・安心・満足」をテーマに教職員が日々授業づくりを行っているので、貴園と連携を深めながら、個々の児童に合わせた接続が行われるように期待したい。

・就学に向けて気になることや支援が必要な子どもたちについては、専門機関との連携や保護者とのコミュニケーションを大切にいただいているので、個別の支援計画をもとにしてスムーズな対応をすることができている。5月に行った小学校の参観日等では、互いに接続期カリキュラムの充実を図る視点を共有する機会があり、本校のスタートカリキュラム改善にもとても有意義な時間になった。